

# teniteoクリニック

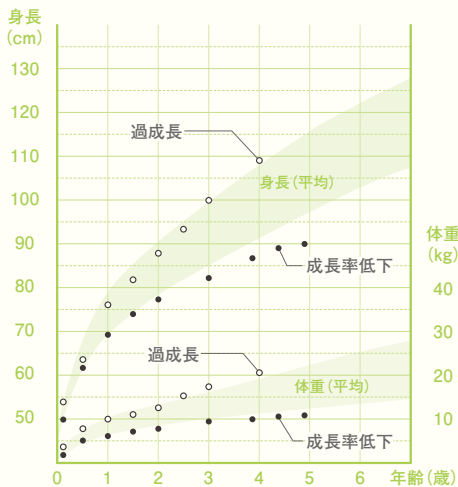
子どもの症状別に、気をつけたいポイントやお家で出来る正しい対処法を先生に教えて頂きます。

今日のテーマ

## 成長曲線の見方

子どもの身長、体重から成長を確認できる「成長曲線」。成長曲線を見る時の主なポイントは大きく分けて2つあります。確認してみましょう。

成長曲線の一例(男児)



過成長:2歳頃から思春期早発症

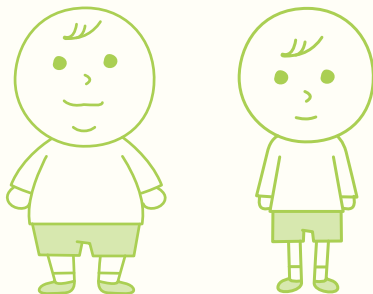
成長率低下:成長ホルモン分泌不全症

### 1 身長・体重がそれぞれの年齢・性別の標準範囲に入っているか

上記の2パターンの成長曲線はそれぞれ、過成長、成長率低下のもの。それぞれの年齢、性別によって違う標準範囲が決まっており、それを外れた場合、何らかの異常の可能性もあります。  
※必ず異常があるというわけではありません。

### 2 身長・体重のバランスが取れ、曲線に沿って成長しているか

極端な肥満や痩せがないかも大切なポイントです。成長曲線が少しずつ下降している、上昇しているなど曲線に異常がないかどうか確認しましょう。体格が小さくても曲線に沿って成長していれば、病的でない「体質性低身長」かもしれません。



## 成長曲線

<対象年齢/0～6歳>

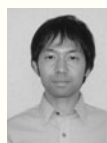
子どもの成長の目安である成長曲線をチェックしてみよう

### 健

診などで身体計測を行った時、身長・体重のグラフを付けてもらった経験のある方は多いと思います。母子手帳の中にもあるこのグラフは「標準成長曲線」と言っています。

日本での健診記録の統計をもとに作られたものです。子どもの成長を確認することで、健康状態を把握することが出来るほか、隠れた病気が見つかることもあります。1歳未満の場合には主に体重増加をチェックし、1歳以上になると体重とあわせて、身長も評価していきます。確認する中で特に注意したいのは、曲線に沿って成長していない場合です。少しずつ線が下降していく場合、様々な病気の可

能性があり、体重増加不良・低身長などの成長障害となると、哺乳・食事不足、甲状腺機能低下症、成長ホルモン分泌不全症、骨系統疾患などの異常が考えられ、その他、心疾患、腎疾患、消化器疾患、先天代謝異常などを原因としている場合もあります。逆に思春期でもないのに曲線が上昇していく場合(過成長)でも異常が考えられます。チェックしてみても、子どもの成長で気になることがあれば、かかりつけの小児科で相談してみましょう。検査が必要と判断された場合、成長障害の専門として「小児内分泌科」があり、そこにさらに詳しい相談も可能です。



●監修  
西門優一先生

平成26年度より小児センター勤務。専門は小児内分泌ですが、小児一般診療も行っています。病気を治療するだけでなく、子どもたちの成長や発達を見守ることを大切に診療しています。

あいち小児保健医療総合センター

愛知県大府市森岡町7-426

☎0562-43-0500 ⑧日月

<診察時間>9:00～12:00、13:00～16:00(紹介予約制)

<http://www.achmc.pref.aichi.jp/>

